

夕刊 警城時報

日四廿
印刷所 警城時報社
発行所 警城時報社
社址 警城時報社

商港阜頭に誇る偉容

小名濱町營魚市場成る

あす盛大な落成式を舉行

小名濱町營魚市場並に市場代りが町の財源を確保する爲の一部の警城水産工業會社の竣工落成式反對を押し切り決断を以つて町は明二十五日午前十時から來賓營に移設せしめ、引き続き多額三百余名を迎へ同市場で舉行さるる費用を投じて深岸を埋立て建物を建設したもので、商港修築

金鶏の余榮輝く

論功行賞郡下關係分

警城水産工業會社の竣工落成式反對を押し切り決断を以つて町は明二十五日午前十時から來賓營に移設せしめ、引き続き多額三百余名を迎へ同市場で舉行さるる費用を投じて深岸を埋立て建物を建設したもので、商港修築

有権者は減少?

九月十五日現在選舉名簿
來月五日から一般に縦覽

本市では去る九月十五日現在で日の軍艦旗制定記念日の催しと市會議員並びに衆議院議員有権者名簿を調査、來月五日から二金を募集、これを海軍へ献納す

着工日取協議

平商建築委員會
平商建築委員會は二十五日午後一時から開き着工日取を協議

茨城縣人總會

平市在郷軍人海軍部では來月三時半散會した

獻金募集

軍艦旗記念催し
平市在郷軍人海軍部では來月三時半散會した

第六回事變國債

あすから賣出し
平局に早くも半數豫約

第六回事變國債は明二十五日の預約申込みがあるので從來日から十一月五日まで賣出され通り期間内には全部賣切れとなるが、平局へも二十四日

應募者十六名

本縣巡査採用試験は二十四日午前九時から平署で行はれたが同署での應募者は十六名

互融會公判

三十一日に開く
日掛十餘貯金で數萬圓を横領、四倉町の秋季清酒法は雨天の爲

各方面へ三百圓寄附

四倉町小湊氏遺族から
記事訂正 既報「警城局友會展覽會は十二月十二、十三兩日開催の誤りにつき訂正

大枝君は重傷

市内四町町住、湯木町出身の内務省警部大枝君は漢口攻

馬目伍長戦死

二丁目の米穀商
市内二丁目三七米穀商見部隊看護部長馬目英三郎君は大別山の戦いで名譽の戦死を告げた旨

若い妻家出

三阪村差遣、満房弟、長谷武の内妻久保マサ(一七)は約二週間前から長武と同棲したが去る十一日夜家出家人が捜索中二十三日市内の旅館に宿泊中発見

平市田町
三三三三三
電話三三三三

天氣豫報
今晩は北の風
明日は北東の風

鹽豚
平市田町
三三三三三
電話三三三三

戦地通信

只今〇州にて 前進準備の待機中

市内田町出身 比佐三郎君

(前号) 九月十六日迄の新聞はいよいよ深まつて、やがての寒見ましたが、國公訪問後の首相冷が思はれず、引つゞき意氣の軍中談でみますと淡口陥落後壯なれば御安心被下度、先日中は戦火は納まるものと思惟され村先生から學校内の變り事御知ますね、これだけたゞのめさらせ頂きて有難う御座います。...

野澤武藏 一日一言

教育者に対する待遇改善問題は久しい懸案である、然し實現の道は尙遠しの観あるは本郡教育界の爲誠に痛恨事、小學校員に對し同情の念を禁じ得ないものである、發達した市町村には概して悪弊を認めないが、山間、漁村等僻地の村落に至ると、教員は社会的な批判を怖れて言動に不平を漏さなさいことをよいに注意して教育に對する経済的義務を後廻しにし給料の不拂ひ町村が頗る多い、更に町村主腦部や乃至は吏員、學務委員、村

開業廣告 齒科 一般の療診 院醫科齒木鈴 男一木鈴 通場車停市平 (前館界世)

強力電氣應用 神經痛に特效 活摩氣麻のハダフ TEL 93 町中 五

石炭 コークス 水野石炭店 平白銀町電二九九

樂太鼓 各種 神社佛閣用太鼓 武徳道場用太鼓 歡迎迎用音樂隊樂器 (タナベ製品) 佐藤太鼓樂器店 電話四八三

展友寫城 於 マルトモ・ホール 11月12・13兩日 一般應募歡迎 締切 11月10日 カメラ材料 西村屋藥局 平市本町二丁目・電話3番

御婚禮御着附 パーマネント ウエーブ 和洋結髪 オゾン美顔術 御染髮洗毛 術 水野化粧院 電話(六七八)營業所 (五二五)自宅

父宗吉儀 永らく病氣加療中の處藥石効なく二十一日午後六時二十分永眠仕候に付此段紙上を以て御通知申上候 追て葬送の儀は來る十月二十六日午後一時自宅出棺海嶽寺に於て佛式相營み可申候 尙時局柄花輪供物等は堅く御辭退申上候 昭和十三年十月二十二日 四倉町字本町 男 小湊 親戚總代 本馬左源次 友人總代 吉田壽三郎 金成岩吉

本組合理事小湊宗吉殿病氣中ノ處去ル二十一日午後六時二十分逝去被致候ニ付紙上ヲ以テ御通知申上候 追而葬送ノ儀ハ二十六日午後一時自宅出棺海嶽寺ニ於テ佛葬可仕候 昭和十三年十月廿四日 四倉信用販賣購買利用組合 組長 門馬倉次郎

お惣菜さつま揚・吉原揚 平市一丁目 電話一四一番